

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070104280		
法人名	有限会社 ふるさと		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	和歌山市小瀬田85番地		
自己評価作成日	平成24年 3月10日	評価結果市町村受理日	平成24年 5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070104280&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 和歌山県社会福祉士会		
所在地	和歌山市手平2丁目1-2 和歌山ビッグ愛6階		
訪問調査日	平成24年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>本人と家族も交えて要望を聞き、適切と思われるアドバイス等を行い、少しでも快適な毎日が過ごせる様支援している。常に入居者中心に何事も考え行動し、出来る限り本人の自由を拘束しない。また、快適な毎日を過ごして頂くには健康管理が重要である。その為、当ホームでは複数の医療機関と提携して、専門医の適切な医療が受けられるようにして医療連携を特に重視している。なお、受診する際の送迎等については、車イス移動車を導入して、出来るだけ家族様に負担を掛けない様に配慮している。基本的には、次の三つのスローガンを基に行動している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 常に入居者様を中心に如何にして安心して快適な毎日を過ごして頂くことが出来ているか。 2. 入居者様の健康管理は重要で、些細な事でも見逃さない様十分管理し、常にベストな体調を維持しているか。 3. 家族様には安心してお預けしていただき、家族様の負担軽減につながり、お役に立つことが出来ているか。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自然に囲まれた静かでどかな環境の中に、門や塀からも事業所が外から見えることで、いわゆる閉鎖的でない雰囲気を感じられる。玄関を入ると、プライバシーを守りつつ、入居者の息遣いが感じられる間取りとなっており、来客者も入居者も窮屈感のない気持ちで、又、自然体で訪れたり、招いたりができる空間となっている。管理者である施設長、副施設長が職員と一体となって自分達のホームを「良くしていくには？」を常に考えながら取り組む姿勢が感じられる。基本的には、入居者やそのご家族の思いを大切に、安全や安心トータルに考えた生活を支援するための日々の努力が窺える事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が十分に共有され実践できるよう、ホール掲示板に掲示している。管理者・職員は会議等の場で取り組みのあり方を検討し、職員個々の考えや要望を出している。事業所内は開放感を満喫できるよう、天井は高く、芝生や景色を楽しむスペースを設けた設計にしている。	理念の共有にあたっては、取り組みに工夫が見られる。職員ノート(管理者と職員の交換日記のようなもの)を取り入れ、理念だけでなく、日々の考えや思いをも見逃さず、実践に繋げられるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や自治会集会などにも参加し、地域とのつながりを大切にしている。また地域の方々と共に外出したり、近隣の農家の方々から野菜や果物を頂いたり地域の一員として地域との交流を図っている。	元々の地元との関係を断ち切ることなく、自治会活動(掃除・集会)等に参加している。散歩や買い物等の外出時は挨拶を欠かさない等で、声をかけたりかけられたりというような一般的な良い意味でのご近所付き合いを行えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催を通じ、地域の方々、地域の高齢者の方々との親睦を深め、その方々と共に行事等にも参加して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に地区住民代表、家族代表、包括支援センター、民生委員、市役所支所長、自治会長の協力を得て、開催している。ホームでの活動状況や入居者の状態、災害時の避難や誘導など様々な支援について話し合っ意見を頂いている。	定期的な形で、又、関係者やご家族にも協力を得ながら、会議を開催している。その中から、基本的な取り組みとしても行っている災害関連については、特に力を入れており、避難や誘導についても細かな決めごとをも行っている。	回数については、現在確かに定期的なものであるが、今後は開催回数(市町村の出席等の関係もある)が増え、より一層の地域や市町村との連携による取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	和歌山市役所安原支所とは連携を密にさせて頂いています。各種行事等があれば声を掛けて頂いたり、支所長自らボランティアで当ホームの行事に参加して頂いたりして交流を密にしています。また、連合自治会長の協力もあり、情報交換やホーム運営へのアドバイス等も頂いています。	支所や包括支援センターとは連絡や協力体制があり、事業所運営にも活かすことが出来ている。市町村にも働きかけとして、会議案内文書を工夫する等がある。	支所との関係性は保たれているが、市からの会議出席がないため、今後も今までと変わりなく働きかけを行い、連携等の強化に期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部講師を招き、法令を学ぶ機会を設けている。またマニュアルの作成や職員会議の議題に取り上げるなど、身体拘束をしないケアを目指し、取り組んでいる。	基本として、研修に力を入れている。外部講師を招く、全職員が受講する等の配慮をしている。研修だけでなくとどまらず、ケアにどう活かすかについても職員間で話し合う等行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での研修は勿論の事、外部より専門家を招き、勉強会を開いている。自己啓発を促し、昨年の目標、次年度の目標を職員個々に作成し、より良いケアを目指している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	上記と同様に専門家の講師を招き、勉強会を開いている。また入居者の中に、実際の制度を利用している方がいらっしやるため実践を通じて勉強できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には入居後予測されるリスク、心身の低下、退去時要件等を説明するのに当たって出来るだけ、専門用語や略語等を避ける様心掛けて、理解して頂き易いようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の心身の些細な変化も見落とさないよう注意している。今の入居者のニーズを的確に把握するように努めている。家族とのコミュニケーションは常に密にして、何でも言えるムード作り心掛けています。また各棟にご意見箱を設置している。運営推進会議内でも利用者家族の方々より、ご意見を頂き、適宜、職員全体で検討し対応している。	会議や面会時等、ご家族とは常に連絡を取るようしており、又、話しやすい雰囲気作りを行っている。身近な職員がご家族とよく話している様子が分かり、それを活かせるように多くの方が参加できるような行事(お花見)の開催も、家族を交えて恒例の催しとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見や提案を言い出しやすいように職員懇親会を開いたり、職員ノートを活用し、意見を求めるなど、職場の雰囲気作りに工夫し、出された意見、提案については月1回以上の職員全体会議などで、話し合う場を持ち、取り組んでいる。	公的、私的に関わらず、話しやすい雰囲気作りを心がけている。会議だけでなく、懇親会や食事会といった気軽な場を設けることで、楽しい時間の中で話をし、話が出来るということを行っている。職員ノート(管理者と職員との交換日記のようなもの)を活用することで、言い出しにくいことも取り上げられる機会をも設けている。	会議、研修会、懇親会、お食事会といったことを開くことが多いため、ともすれば集まるが多くなり、かえって職員には負担となる場合も考慮して、管理者、職員共に疲れない、気兼ねのない時間や空間づくりを行えることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	専門家を招き、職員の考えや希望に、応えられるようにしている。また就業規則を見直し、安定、安心して働けるよう職場環境を整えている。職員代表を選出し、なんでも話せる風通しの良い環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師を招き、職員の資質の向上に努めている。また職員個々に年間の目標を立て、この目標に向けて、各々が創意工夫をして取り組んでいる。各種研修には、積極的に参加できるよう時間、費用等にも配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度も、他施設の現場実習に参加させて、自施設にはない、良い面を勉強するよう交流の機会を深められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族、各関連事業からの情報収集を行い、その中からニーズを見出し、また本人、家族とのコミュニケーションも密に行いながら、より良いサービスの提供を行えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様にコミュニケーションを密にし、入居前の面談、入居後の方向性など、あらゆる場面を想定し、家族の希望と本人の要望や意思を尊重して行動し、入居者の不安感をなくす様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談の際には、他のサービスを含めた話し合いを行うが、家族といえども入居者本人の状態を正しく把握出来ていないケースもあるので、事前に密に話し合いを行い、本人にもっとも必要とするサービスを決められるよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に入居者を中心として考え、行動し、季節の行事や年中行事など活気ある生活になるよう取り組み、日々のメニューも入居者の要望を取り入れながら、創意工夫を凝らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関わりを大切にすることで、日々の本人へのサービス、家族の安心感へとつながっていくため、共に同じ気持ちをもって本人を中心に、向き合っていけるよう努め、行事などにも積極的に声かけをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	深夜を除き、面会時間には決まりもなく、自由になっており気兼ねなく来所して頂けるよう取り組んでいる。家族以外の知人の方なども自由に来所されており、入居者の交友関係を大切にしている。また、外出や外泊などの送迎も要望に応じて支援している。	出来るだけ自由な雰囲気や自由な時間を、との考えを取り入れており、面会者や馴染みの人との交流を積極的に支援している。面会訪問だけでなく、本人が出かけていくことへの要望に応じる用意が整備されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々に合わせて、生活活動の場面で、利用者同士が出来ること、難しいことを支え合えるように声かけや、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、入居中の信頼関係は大切にして適時連絡を取っている。(例えば入院した場合、病院へ様子伺いに行く等) また退所後であっても来所は自由であり、相談があれば応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活スタイルの観察やコミュニケーションから得る情報、家族から得た生活歴を活用して、職員全体で感じ取れるように職員間での情報交換を行いながら、本人本位で安心した生活になるよう努めている。	少しのことや一つのことでも、職員間で共有し、話しあう雰囲気を作っており、そういう取り組みから、入居者の思いや考えを聞きもめらさないように進めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記と同様に本人とのコミュニケーションや家族とのコミュニケーションを密に行うことで、過去の生活歴、現在の生活習慣の把握につながり、それらを活かしながらサービスに結びつけてる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェックを行うとともに表情や声色、コミュニケーションを密に行えるよう努めて、些細な変化に対応し、その日1日の様子を把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンス、計画の見直しを行い、本人の現在の状況に合わせて、家族の意向や要望も取り入れ、より良いサービスの提供が行える様、日頃より現況把握に努めている。	計画の見直しについては、そのことだけにとらわれるのではなく、定期不定期に関わらず、日常より気付いたことについては話しあったり、確認し合ったり等を行い、その人にあったプラン作りをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送りの記録用紙、連絡ノートなど活用しながら、日々の様子や現況の把握、身体の異常など、その時々ニーズを見出し、ケアに反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複数の医療機関と連携をとり、定期的な通院や往診を行い、健康管理に十分に配慮している。また医療機関からも指示・指導・助言を頂き、日常生活で本人や家族の希望に沿えるよう支援している。また家族、地域の方を交えた行事なども行い、多様なニーズに応えられるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園の慰問や、地域のスーパーへの買い物など、閉じこもりがちにならないよう、積極的に外出支援を行い、地域との交流につなげている。また自治会長や市役所支所長等の協力も得て、各催事の情報なども頂き、日頃からの地域との交流を活かし、運営に反映させている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院とは連携を密にしており、入居者への各種指示、各感染症予防策の指導を頂いている。また夜間緊急時等に関しても迅速に対応して協力頂いています。	入居されている方やご家族にとって、安心とは何かを考え、医療に重きを置いている。病院や医院との連携は充分に行っており、緊急時の受診にも速やかに対応して貰えるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師から随時、緊急時等の相談や指導を頂いています。往診時には医師はもちろん、看護師も同行されていることから、日々の生活状況や体調なども職員を交えて相談して頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の状態については、往診を通じて医師・看護師ともに把握して頂いているので、入院しても適切な処置をとれ、退院も比較的早く出来ることが多い。退院後もフォローについても、臨時の往診など、十分な対応をいただいています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を十分に聞き、医師・看護師を交えて情報の共有を図り、連携を密にしている。入居者の本人にとって一番適した施設の紹介やまたは重度化した場合の対応など、適宜家族と医療機関なども含めて相談している。	本人やご家族の気持ちや考えを大切にすることを第一に考え、日常からの医療に対する考えを受けとめており、その中から重度化等に対しても対応できるように準備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、提携病院からの指導、外部からの講師を招いた勉強会を行い、また災害時にも対応できるよう避難袋を常備しており、迅速に対応できるよう努めている。また職員も外部へ救急法研修にも参加し、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	上記と同様に避難袋、避難場所の確認、避難訓練などに取り組み、運営推進会議の中でも、災害時の協力等の声もかけて頂き、協力体制の充実化を図っている。	災害については、研修等を通して十分な理解をしており、又、避難についても細かい取り決め等も行っている。避難袋等も一人ひとりの物をさりげない形で、分かりやすい場所に準備しており、仰々しくはないが、必要な対策を取っていることが分かる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを込めた言葉の中にも、本人を尊重し、適切な言葉かけや、排泄や入浴の際も個別に対応し、デリケートな部分に考慮しながらケアを行うよう努めている。また個人情報取り扱いなども、専門家を招き、プライバシー保護への考えを強化し、勉強会なども取り入れている。	研修には力を入れており、専門的な講師を招き、全員が受講できるようなものとしている。穏やかではあるが、配慮のある言葉かけを管理者自らが行うことで、他職員への見本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて、その時々ニーズに応えられるよう言葉かけや、生活動作を選べる雰囲気作りなど、本人本位の生活になるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールを特に決まることなく、一人ひとりの生活リズムを把握し、入居者には職員が寄り添い、傾聴できるよう対応に希望に沿えるよう可能な限り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日のリズムを感じて頂き、その人らしい、生活習慣になるよう就寝時の更衣、起床時の更衣を行い、またその衣類に関しては、本人とともに選び、本人本位のケアに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作るときに入居者の希望を取り入れたり、近所からもらった旬の野菜や果物を用いて季節感を味わえる食事作りに努めています。また調理中や、配膳の準備など入居者個々の状態に合わせて、職員とともに行い、出来た料理を職員も入居者と一緒に世間話などしながら食べ、心地の良い食事環境になるよう日々取り組んでいます。	食事時間だけでなく、前後も声かけや雰囲気作りなどを行っており、行事食(季節を取り入れたものや日本古来の行事)にも気を遣っている。それによって、会話が弾んだり等の楽しい食事時間となっている。	身体や精神状況といったことや衛生面という問題もあるが、楽しい食事や一人ひとりの力を活かすという観点から、調理まではいかななくても、食材選びや下ごしらえ的なこと、盛り付けや片付け等を入居者自身で行うことで食事をもっと楽しむという取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェック表を作成している。一人ひとりの状態を把握して、トロミ材を使用したりして摂取して頂きやすいよう工夫している。食事量、栄養のバランスにおいても、常に主治医と相談して調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア、うがいをを行い、夜間には義歯を洗浄剤につけ、口腔ケアの際には言葉かけだけでなく、指示動作も行い残存機能の活用に努め、過剰介助とならない様注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人の排泄リズムを把握して、適時にさりげなく声かけを行い、トイレでの排泄に努め、不快な思いをされないよう考慮している。カンファレンス等で職員間で話し合い、リハビリパンツ等の使用についても、適、不適を見出し、個人の思いを考慮してサポートしている。	各個人の希望や排泄リズム等を職員全体で把握し、取り組みを行っている。根気強く行うことで、つなぎ服やオムツ使用からパンツ式オムツ利用のレベルまで改善出来たような支援がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックは毎日記録しており便秘にならないよう、各人の嗜好食品も考慮して食事面からもサポートしている。また主治医とも相談して各人に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特別な時以外はほぼ毎日入浴を行っている。個々の状況に応じ、手・足浴、清拭浴も行っている。現況、夜間入浴を希望される入居者はなく、夜間入浴は行っていないが、今後希望されれば、本人の思いに添えるよう職員間で話し合い、主治医とも相談し、個々の要望に添えるよう取り組んでいる。	清潔不潔としてだけの入浴ではない、楽しみとしての入浴となるように進めている。入浴剤を数種類準備することや季節風呂とする等の工夫も行っている。体調や状況に合わせて、入浴だけでなく、足浴や清拭等も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各人の生活習慣や病状の把握により、居室内で休息して頂くようサポートしたり、安心して眠りに入れるよう、空調を事前に調整しておくなど、一人ひとりが安息して頂けるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医との連携を密にして、往診ノートに記録して、各人の状態を確認できるよう工夫している。医療機関への受診、投薬などの記録も作成しており、服薬についても適切な支援ができるよう努めている。また、病状の変化があった場合、適時、主治医の指示を仰ぎ、適切に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活では、洗濯物を分けてたたむ、干す、家事への参加など一人ひとりの役割や楽しみのお出番を作れるよう、生活歴も考慮してサポートしている。各人の特異な分野を見出し、張り合いのある場面作りに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節により異なるが、近隣への散歩や買い物は入居者の希望に合わせて、行っている。自宅や知人宅への外出なども個人の要望に応じて家族と相談させて頂き応えている。ホームの毎年の恒例行事として、家族や地域の方々の協力を得て花見会を催している。庭や畑にも梅や桜もあり、身近に季節を感じられるよう工夫している。	季節や体調に合わせての外出を行っている。協力を得た上で、本人の希望先への外出(馴染みの美容院や知人宅への訪問)等にも積極的に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者各人の状態に合わせて家族と相談の上、管理が可能な人は本人が管理している。訪問理美容費や嗜好品などに本人が使えるようにサポートしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者各人の状態に合わせて家族と相談の上、サポートさせて頂いている。(電話の呼び出し、郵便の投函など)また、携帯電話をお持ちになっている方もおられるが、特に規制は行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節の花(利用者が活ける)や植木を植えて、みどりの空間を多く作っている。心地良く過ごして頂くため、障害物にも配慮している。ホールはテレビを大型に変えて、皆さんが楽しんで頂けるような空間作りをしている。ホールには空気清浄器、加湿器を置き、空間管理にも気を配り、健康管理に努めている。	天井の高い開放感のある共用空間は、綺麗な空気の流れと陽光を取り入れて、居心地の良い空間を提供している。におう等の不快な感覚刺激はなく、健康管理面での配慮に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	南向きの日当たりの良い場所にテラスを置き、外の景色が楽しめるようにしている。また、玄関ポーチには椅子を並べて思い思いに自由に移動して楽しめるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた馴染みの家具や置物を持って来て頂いています。各居室には掲示板をつけて、家族や思い出の写真などを貼り、自由にご使用して頂けるよう工夫している。ご仏壇を持ってこられている方もいらっしゃいます。	自分の持ち物の持ち込みも各個人の好みで行えており、その人にとって使いやすい家具やその人の好みの寝具など、個人の部屋が一人ひとりの個別のものとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者各人の出来ること、難しいことをサポートするため生活空間に於ける障害物をなくし家事参加などに本人の意思を尊重しながら、積極的に参加して頂けるよう調度品などの設置に配慮している。		